

**2015年3月8日 主日礼拝**  
**説教「目をさまして」**  
**マタイの福音書 25章 1-13節**

**【婚姻の喜び】**

ここには、婚姻の喜びがあらわされています。花婿は、イエス・キリスト。再臨の主を迎える喜びの日が描かれています。26章からは、最後の晩餐そして十字架へと続きますが、そんな受難の悲しみに呑み込まれてしまわない主イエスにある喜びがここにあるのです。

**【居眠りしても】**

主イエスの再臨を私たちは、どのように待てばよいのでしょうか。「目をさましていなさい」(13)と主イエスはおっしゃいます。けれども、それは再臨までずっと緊張していなさい、ということではないようです。なぜなら、譬えの娘たちは、愚かな五人の娘も、賢い五人の娘も、両方、居眠りをしていたからです。そしてだれも居眠りをしたということで、責められた者はいないのです。

主イエスは、私たちの弱さをよく知っておられます。起きていようと思っても、居眠りをしてしまう私たち。主イエスは、ゲッセマネでも、居眠りをしてしまった、弟子たちの弱さを受け入れてくださいました。だから、主イエスは、「居眠りしたってかまわない。ただ油を用意していなさい。それが目を覚ましていることだ」。そうおっしゃったのでした。

**【油を用意するとは】**

ある人々は、この油は聖霊だと考えます。いつも聖霊に満たされていることだという。聖書で油は聖霊を意味することが多いから、という理由です。またある人々は、油は祈りだと言います。「目をさまして祈っていなさい」という命令だと考えます。どちらもまちがってはいないでしょう。

そもそも、聖霊に満たされることも、祈ることも、主イエスにつながっていなければ起こらないことです。油を準備しているとは、主イエスにつながっていること。居眠りしていてもよいので、主イエスにつながっていること。主イエスにつながっているなら、聖霊に満たされることが出来ます。主イエスにつながっているなら、祈ることが出来るのです。

**【十人の娘の像】**

ヨーロッパには、入り口に十人の娘の像がある教会があります。それは、礼拝者を脅かすためではなく、礼拝者を励ますためです。「あなたは、礼拝にやってきた。おめでとう。主イエスがあなたの油を満たしてください。たとえ居眠りしたとしても、あなたは、恐れなくて良い。主イエスがあなたの油なのだから」と励ますためなのです。

**【神のサービス】**

キリスト教会の2千年の歴史の中で、礼拝について繰り返されてきた不思議なことばがあ

ります。「礼拝とは、神のサービス」なのだと  
言うのです。もちろん礼拝は、私たちが神さまに  
献げるものなのですが、それは神さまが私たち  
にサービスしてくださり、仕えてくださること  
から、始まるのです。最後の晩餐で弟子たちの  
足を洗い、十字架の上でご自分を与えてくだ  
さった神さまのサービスがなければ、私たちの  
礼拝は始まらないのです。

だから、礼拝に集うことは、神さまのサー  
ビスを受けること。英語で礼拝をサービスと言  
いますが、神さまのサービスを受けることです。  
そして、その応答として、神さまにサービスす  
る、仕えることができるのです。

居眠りしていても、油を用意していることが  
できると、申し上げました。神さまが備えてく  
ださるからです。神さまが私たちに、主イエス  
という油を満たしてください。私たちの心がさ  
だまらない礼拝であっても、牧師の説教が聞  
くに堪えないような礼拝であったとしても、  
主イエスの恵みは、そこにあるのです。

**【おそれてはならない】**

私たちは「もっと祈らなければならぬ」と  
か、「もっと聖霊に満たさなければならぬ」と  
自分を駆り立てる自分自身の声に悩まされ  
ます。けれども主イエスは、私たちに責める自  
分自身の声から解放してください。心から安  
心させてくださるのです。神であるご自身  
のサービスによって。